韓国へ修学旅行

青森県の松風塾高校

友情深めた親善の旅

日本文化の源流も知る

【青森】青森県のミニ高校の二年生五十名が韓国からの招へいでことし四月十四日から十泊十一日間、光州、ソウル、慶州方面へ修学旅行に行ったが、生徒たちは隣国から日本を眺める機会をつかむことができた。また、各所で東洋文化の源流にふれ大きな感慨を覚えたという。旅行後、生徒たちは「同じ民族が二つに分かれて争うことの悲しさ、残酷さを知った」「ひとりひとりの韓国人が理想に向って努力している姿にこころが打たれた」と感想文に書いていた。

姉妹農園の関係にあり、深い交流を重ねてきた。

昨年、高校になったのを機に、韓国文部大臣柳基春氏から「ぜひ修学旅行にきてほしい」と招かれた。学校側では田沢校長以下全職員が検討した結果〝またとない好機だ〟と、こころよくこれに応じることになり、諸準備をはじめたこの修学旅行の目標として①海の向うから祖国の姿を眺め、日本をあらためて理解させる②集団行動を通して旅行のマナーを体得させる③韓国の文化財を見聞させることにより、東洋文化、ひいては日本文化を、理解させることにした。

旅行日程は四月十四日に青森を出発。翌十五、六日には萩市内を見学し、関釜フェリーで十七日に釜山着、途中で順天農専校を見学して光州へ。光州では教育機関をみて、十九、二十日はソウル泊り。その間に板門店も視察した。

二十一日には慶州へ。石窟庵に登山、ご来迎を拝したり、通度寺を見学して二十四日の朝、青森に帰った。旅行先きでは韓国の私立高校生と交歓したこともあり、両国親善のため大きな貢献をした。

旅行費用は一人六万六千九百七円。韓国内ではとくに費用を安くしてくれたという。

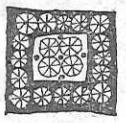
同校教諭・瓜田博保氏の話　日本を理解するためには海外旅行先きで受けた〝親切〟は誰でも一生忘れることができないもの。とくにからだの不自由な人にとっては、その〝親切〟は、こまれるほどうれしいに違いない。

肢体不自由児たちの修学旅行で受けた善意を伝える養護学校教諭の投書が五月二十日付の読売新聞（東京）に載った。

★

ある肢（し）体不自由養護学校高等部三年の生徒八人は修学旅行のため、きる十三日の正午、京都駅に着いた。そして観光バスで、大本山南禅寺御茶所へ立ち寄り、南禅寺湯豆腐を所望した。

ところが店内は、長方形の床几（しょうぎ）で仕切られていて、足が硬直した二人の車いすの生徒が食事をとるには、少しばかり不都合だった。そのことを店の人に話すと、それにふさわしい食卓を快く直ちに庭の一角に用意してくれ、さらに、上肢の緊張が激しく、食事に手間取っている人君の様子を見つけた一人の女店員は、ちょうど客の立てこむ昼食時であったにもかかわらず、A君が食べ終わるまでピッタリと寄り添い、懇切にスプーンで介助を施してくれたのである。



そして、また帰りぎわに、私の耳元でささやいた「どうぞ、みんなのご加護がありますように」という店主の桜井さんの言葉と「くじけないでがんばってね」と、いつまでも手を振っていた三人の店員の姿にも、私は感銘をうけた。

疾走するバスの中で、この温かな善意の広がりこそが、この子らの前途に大きな希望の灯となるのだと、私はひとり、確かな安らぎを覚えていた。

（神奈川県・養護学校教諭・磯田孚）

柳・文相の招きで

それは昨年四月に開校した学校法人、松風塾高校（青森県東津軽郡平内町、田沢康三郎校長）で、現在一、二年生百名が在籍している。

この学校は宗教法人・神道大和山が青年塾として設置したもので、その後、学校教育法に基づいて高校に組織がえした。校長の田沢康三郎氏は旧帝大文学部宗教学科卒で、宗教家としても知られ、現在、平内町の教育委員長でもある。神道大和山を開いたのは同校長の父君。

同高校を経営する宗教法人・大和山本部は付属農場の「みちのく農園」を持ち、かねてから大韓民国全羅南道光州市蔬菜園芸組合と

日帰りで東京湾めぐり

＝都観光連と東海汽船＝

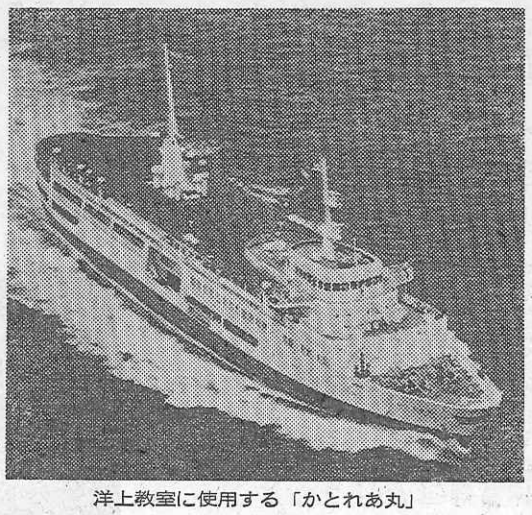
洋上教室をひらく

社団法人・東京都観光連盟と東海汽船株式会社では修学旅行や遠足の目標を海上におき、美しい自然との触れ合いを求め、さらに周辺に発展する工業地帯の観察を深めてもらおうと〝洋上教室〟を開設した。

コースは日帰りで午前九時に東京都港区の竹芝桟橋を出帆、羽田沖、川崎石油化学コンビナート沖、横浜、横須賀沖を経て久里浜へ正午に到着、ペルリ上陸記念碑、住吉神社、野比神社を見学し、午後二時に久里浜を出帆、勝山沖、木更津沖、京葉工業地域を経て竹芝桟橋に午後七時に到着する。

現地指導としては担当教諭によってブリッジから放送設備を利用し、航路に沿って観察ポイントの説明を行なう。この場合、船長または事務長などの解説もある。

担当教諭による説明は社会科が①京浜工業地帯②東京湾と流通革新③船舶乗務員の組織、活動など。理科・工業科は①海水②海の生物③地質、気象④船の科学機関。保健体育科は船上での⑤スポーツと保健、家庭科は船員の食生活。生活指導では船内のエチケットやリクリエーションの指導を行なうことなど。



洋上教室に使用する「かとれあ丸」

一等船客では公害の原因とその実態を観察、上方甲板からは三浦半島、房総半島の丘陵、幕末の史跡などが見学できる。

使用船は「かとれあ丸」（一、二二〇トン＝定員一、三五六名）と「はまゆう丸」（一、二三四トン＝定員一、五五八名）で、所要時間は竹芝桟橋起点で約三時間、大島基点で約六時間。貸切料金は「かとれあ丸」が一百万円、「はまゆう丸」百三十万円（いずれも十二時間）となっている。

この洋上教室は昨年、鴎友学園（東京都世田谷区）が利用、生徒たちの人気を博した。

また、都観光連盟は東京私立中学高校協会、同修学旅行研究調査会の後援で、大島や三宅島の見学会も行っている。

研究調査協力校①

財団法人・全修協では各支部を通じて修学旅行についての研究と調査に協力する全国の小、中、高校を要請しているが、現在まで協力を申し出た学校は次の通りである。これらの学校は全修協の依頼に応じていろいろな資料を提供することになっている。

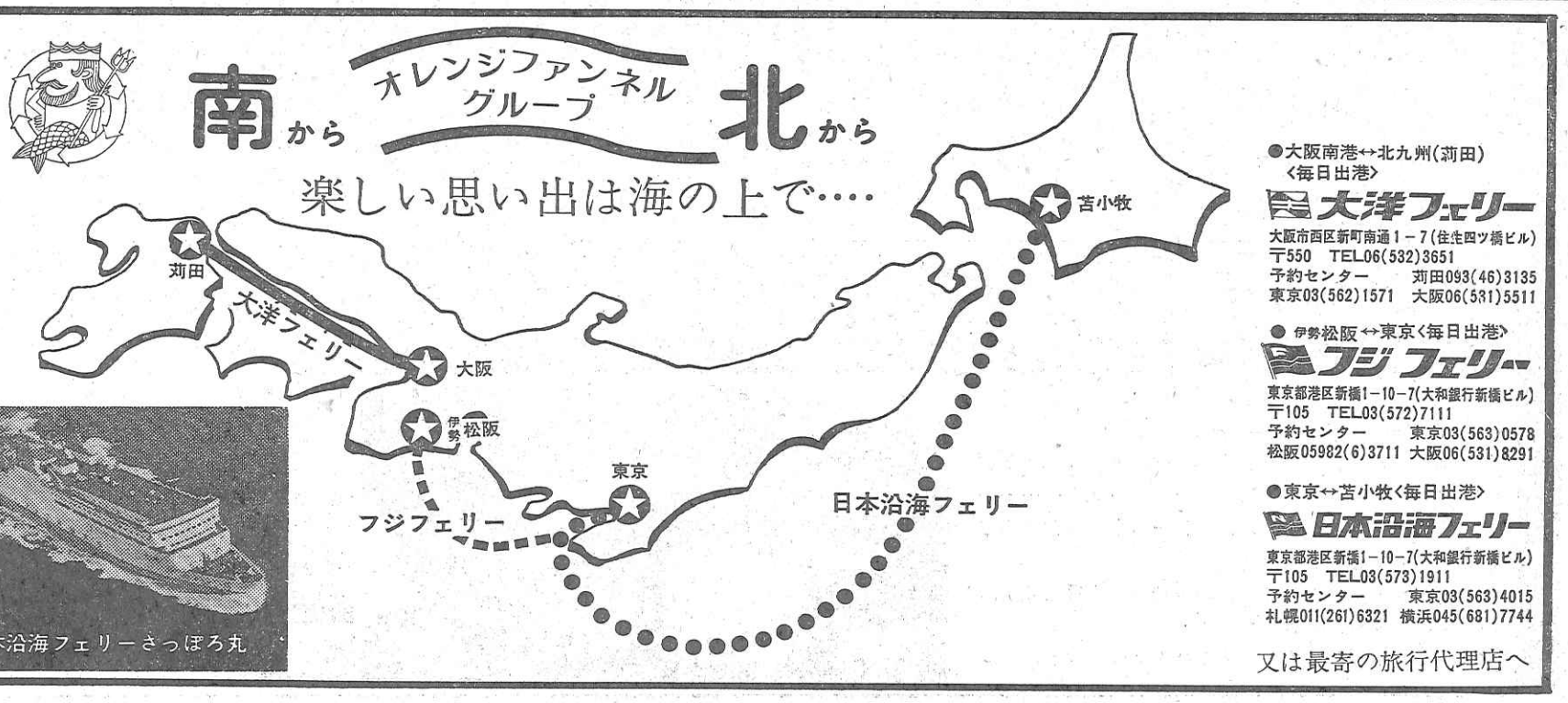
【長野県】開智小、竜頭中【長崎県】時津小、西浦上中、大村園芸高【佐賀県】勧興小、成章中、佐賀商高【埼玉県】大砂土東、川越一中、岩槻高【広島県】観音小、観音中、国泰寺高【三重県】中島小、飯野中、上野高【秋田県】勝平小、上川内中、本荘高【福島県】森合小、小川中、会津女子高【新潟県】四郎丸小、本丸中、白山高【岐阜県】鵜沼一小、蔡南中第一女子高【岡山県】西大寺小、石井中、就実高【徳島県】北島小、藍住中、徳島東工業高【愛媛県】久枝小、川東中、松山北高【宮崎県】国富小、宮崎東中、宮崎工業高【鹿児島県】田上小、神ノ川中、串木野高【和歌山県】有功小、下津一中、吉備高【青森県】大平小、鰺ケ沢一中、八戸北高。

団体拝観料

②京都のおもな社寺の団体拝観料金は次の通り。（四月から、いずれも三十名以上、単位円）

▽三玄院（高一二〇、中六五）▽三十三間堂（高八〇、中五〇）▽三千院（高中とも一五〇）▽勝持寺（高中とも一八〇、ただし五〇名以上二割引、百名以上三割引）▽正伝寺（高九〇、中七〇）▽勝林院（高のみ五〇）▽青蓮院（高一二〇、中一〇〇）▽実相院（高一五〇、中一〇〇とし五十名以上各一割引）▽寂光院（高一五〇、中一〇〇、ただし五十名以上）▽十輪寺（高のみ八〇）▽常照寺（高中とも五〇で二十五名以上は一割引）▽常寂光寺（高中とも八〇）▽城南宮（高中とも一〇〇）▽神護寺（高一〇〇、中八〇）▽随心寺（高一〇〇、中八〇）▽石峰寺（高一八〇、中九〇）▽泉涌寺（高一五〇、中は謝絶）▽禅林寺（高八〇、中五〇＝永観堂）▽退耕庵（高七〇、中三〇＝二十名以上団体扱い）▽退蔵院（高一八〇、中九〇＝妙心寺塔頭）▽大覚寺（高三〇、中一〇〇）▽大仙院（高一二〇、中六五）▽醍醐三宝院（高一二〇、中七〇）▽知恩院（高九〇、中四〇）▽長楽寺（高一三〇、中六〇）▽直指庵（高中とも一〇〇）▽天竜寺（高一五〇、中八〇）▽東寺（高八〇中六〇＝二十名以上団体扱い）▽等持院（高一六〇、中一〇〇）▽東福寺（高七〇、中三〇）▽南禅寺（高一〇〇、中七〇）▽二条城・入域（高二五、中一五、同御殿（高七〇、中四〇）▽二尊院（高中とも七〇）▽仁和寺（高一七〇中一五〇）▽芬陀院＝雪舟寺（高七〇、中四〇）▽平安神宮（高八〇、中六〇）▽法界寺（高一〇〇中六〇）▽宝鏡寺（高一五〇、中八〇）▽豊国神社（高七〇、中五〇）▽芳春院（高一二〇、中六五）▽妙心寺（高中とも八〇）

なお、団体謝絶は詩仙堂、実光院、峰定寺。団体扱いをしないのは曼殊院、蓮華寺）



古墳の主を語る碑文

古代の群馬を探る <10>

石井清二郎

石井清二郎氏

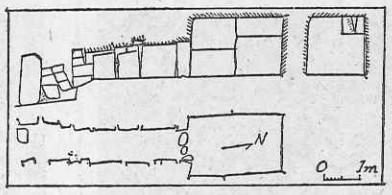
(一〇) 古墳と碑文とのかかわり

山ノ上古墳は、高崎市山名町字山神谷にあり、丘の中腹に山よせに造られた円墳で、小さいながらも凝灰岩、緑石切組積の両袖型の横穴式石室をもった美しい古墳である。

群馬大学名誉教授尾崎喜左雄博士の調査研究によると、石室の全長七・五六㍍、玄室の長さ二・七㍍、玄室の幅一・八㍍、羨道（せんどう）四・八六㍍である。羨道の前部は後補とみられ、天井石もそれに対応している。当初は石室全長五・四㍍であったと考えられる。従って玄室の長さと幅との比の値は一・五である。（この比の値が古墳の年代推定の要件である。（注）「横穴式古墳編年の総合研究」

さらに使用尺度が唐尺であること、石積の技法が截石切積であることから、この古墳の築造年代は七世紀後半中頃と推定される。本県古墳の終末のものは蛇穴山古墳でA・D七三〇年ごろと推定されているから、山ノ上古墳は本県に横穴式古墳が築かれるようになった六世紀後半から三分の二の時、すなわち約一〇〇年経過していると考えられている。

さてこの古墳は築造技術の上からも学術的価値の高いものであるが、山ノ上古墳を真に価値あらしめたのは、この墳口の傍に建てられた山ノ上の碑との関係そのものである。



山ノ上古墳石室実測図。「横穴式古墳の研究」から

山ノ上の碑は堅い安山岩の川原石をそのまま使用し、低い自然石の土台石にはめこまれている。碑高一一二㌢㍍、正面最大幅四八㌢㍍である。碑文は漢字五三字を次のように四行に書きわけてある。

辛己歳集月三日記
佐野三家定賜健守命孫黒売刀自
此
新川臣斯多々弥足尼孫大児臣娶
生児

長利僧母為記定文也　放光寺僧

漢字ばかり並べてあるが和文である。従来種々解説されてきたが黒板勝美博士の読みを尾崎博士も継承して今や通説となっている。その読みに従えば、辛己（かのとみ）の歳集（としづめ）月三日記（しる）す。佐野（さの）の三家（みやけ）と、定め賜える健守（たけもり）の命（みこと）の孫黒売刀自（くろめとじ）、此れ新川（にいかわ）の臣（おみ）の児斯多々弥（しだたみ）の足尼（すくね）の孫、大児（おおご）の臣（おみ）に娶（めあ）いて生める児、長利僧、母の為めに記し定むる文也　放光寺僧。となる。

放光寺の長利僧が母のために墓を築き、その傍に碑を建て、母とその子である建碑者を系図で表わし墓標としたものであるという。

ただ碑文には母為とだけあって母のなんのためか記してないが、尾崎博士は、法隆寺金堂四天王造像銘に「山口の大口費を上として次に木閑一人の作也」とあるのを挙げて、この文章からは何を造ったかは判明しないが、四天王像に刻まれていて初めて「この像は」が省略されていて判るので、この碑文も「母の菩提のため」とかの意味の言葉を欠いているが、この碑文類似の墓誌の研究、本文の辛己歳の研究考察からこの年を天武天皇九年、西紀六八一年と断定し古墳の型・技術などの研究結果を照合して年代的に両者は全く一致するとし、山ノ上碑と山ノ上古墳の関係を明確にした。

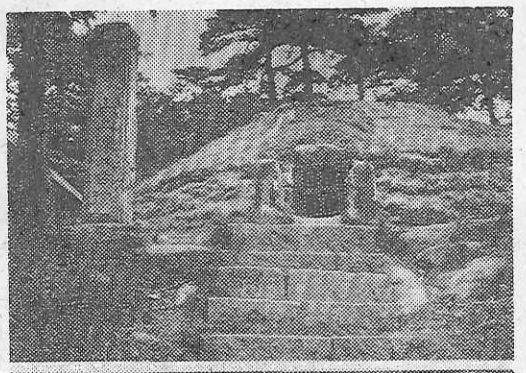
なお①山ノ上碑は上野（こうづけ）三碑の一に数えられているが他の②金井沢の碑③多胡碑相互の存在位置は一〇㌔㍍以内の近距離にある。①はA・D六八一②は神亀三年A・D七二六③は和銅四年A・D七一一である。

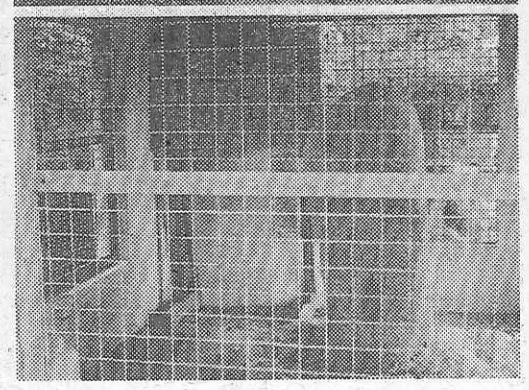
このように七世紀末から八世紀初頭にかけての半世紀間に他に現存例の少ない石碑が見られることは注目すべきことである。

そして山ノ上の碑が古墳との関わりにおいて被埋葬者を明示していることは、古墳文化と文字文化の関連という文化史上、重要な位置を占めていることは特筆に価しよう。

【筆者付記】群馬古代の遺跡遺物を通して、無土器文化の大昔から、古墳時代まで概況してきたが群馬の古代の人々のよりよき生活への願いと、そのエネルギーとを感得していただければ幸いです。

【前群馬県中学校長会会長】





㊤は山ノ上古墳。㊦は山ノ上碑

富山県の文化財 <2>

魚津の三大奇観

清水巌

往時しのぶ埋没林

昭和五年十一月、魚津港築港のため当時砂浜であった海岸線を掘っているとき、思いがけず地表下一一・五㍍のところから、多くの倒木や木の根が現われました。これが魚津埋没林の発見となったのです。

埋没林の樹種は十三科、十五種発見され、そのうち九〇％は杉で樹令は二百年から五百年のものが多く、まれには一千年におよぶものがあります。

埋没林の大部分は巨大な樹根で大きなものは、切り口で三一四㍍もあり、中には倒木に樹根をくわえているものもあって、その上に繁茂していたことをしのばせます。この杉の末端は、C一四アイソトープ検測によると、現在よりプラス・マイナス千九百六十年という数値がでています。また、樹根付近からは、縄文時代後期から晩期にかけての土器が発見されており、この原始林の栄えたときは二千五百年前後と考えられています。

このような近い時代にさえ土地の沈下、とくに日本海側において海面下に没したことは、不安定な日本列島の特色を示す貴重な資料といえましょう。国指定特別天然記念物。魚津市釈迦堂・魚津市立埋没林保存館に展示。

神秘なほたるいか

学名はワタセニヤ・シンチルランス。体長は雄四五―五四㍉㍍。雌五四―七一㍉㍍。

ほたるいかとは、明治三十八年渡瀬庄三郎博士によって命名されたもので、ほたるいかそのものが天然記念物ではなく、その群遊地（常願寺川河口左岸から魚津市信濃浜に至る海岸の満潮時より千二百六十㍍以内）が〝特別天然記念物〟に指定されています。

ほたるいかの棲息は〝謎〟とされていますが、水深二百㍍ぐらいあたりに棲み、産卵期（四、五月ごろ）になると、水圧の低い高温な浅浜へ浮上してくるため、ほとんど雌ばかり捕獲されます。

ほたるいかは、名前の示すとおり発光いかで、発光器は三種あり第一の腕発光器は一番大きく、次いで第二の眼発光器、第三の皮膚発光器は、四七〇―七〇〇個を有しています。

その光源はアミノ酸でできている発光素（ルシフェリン）と発光酵素（ルシフェラーゼ）と酸素による化学構造式が明らかとなりました。

春の海面に、あやしく美しい青線の光を放つ光景は、海の神秘さを豊かにします。

よみがえる蜃気楼

砂漠の真昼の夢ならぬ海の不思議。天然記念物ではありませんが見落とすことのできないものです。

蜃気楼は、四月から六月までの風のない晴天の、ちょっとむし暑い日によく発生するといわれ、地元の古老たちは、肌で感じとるといわれます。

最初は、水平線にぼんやりと雲か雲のようなものが、次第に形づくられ、見る人によってさまざまな形を想像します。長いときには約四時間、切れたり変化したり、見る人の夢をふくらませます。

蜃気楼の発生は、立山連峰を中心に降り積った雪が、春の雪どけに黒部、神通、常願寺川といった大きな川から急に冷たい水を海に注ぐので、海面の空気が冷えます。しかし、気候は暖かいので、陸地の空気の密度は薄いので、海面は冷えて濃くなるために、太陽光線の屈折の関係で、対岸の物体が映るのだといわれます。

しかし、この蜃気楼も近年すっかり姿を見せず、がっかりさせたものですが最近再びそのニュースが聞けるようになったのは喜ばしい限りです。

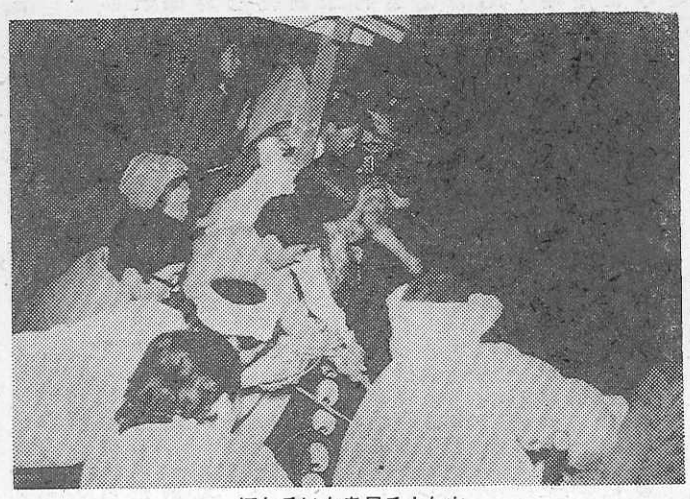
今回は、いわゆる魚津の三大奇観を取りあげましたが、このほか戦国武将の悲劇を伝える魚津城、松倉城、そして加賀前田藩を支えた松倉金山跡などが近郊にあります。

越の海の信濃の浜を行き暮らし見る人の夢をふくらませます。

ものですが最近再びそのニュースが聞けるようになったのは喜ばしい限りです。

【筆者付記】群馬古代の遺跡遺物を通して、無土器文化の大昔から、古墳時代まで概況してきたが群馬の古代の人々のよりよき生活への願いと、そのエネルギーとを感得していただければ幸いです。

【前群馬県中学校長会会長】



ほたるいかを見る人たち。

〝〝〝〝〝〝〝 京都・七月の行事

京都の七月はいろいろな行事がくりひろげられるが、なかでも祇園祭は圧巻。変わっているのは陶器供養、社寺宝物の虫干しなどだろう。おもな行事は次のとおり。

▼一日　御戸代会神事（みとしろえのしんじ）賀茂御戸代能（上賀茂神社）▼一日―二十九日　祇園祭（八坂神社）▼七日　北野天満宮七夕祭（北野天満宮）白峰神宮精大明神例祭（白峰神宮）貴船の水まつり（貴船神社）▼九日―十二日　陶器供養　法要と陶器市（千本釈迦堂）▼二十一日　松尾大社御田祭（松尾大社）▼二十二・三日　伏見稲荷大社本宮（もとみや）祭（伏見稲荷大社）▼二十五日　鹿ケ谷カボチャ供養と宝物虫干し（安楽寺）真如堂寺宝虫払会（真如堂）▼三十日　みたらし祭（下鴨神社）▼三十一日　愛宕神社千日詣り（愛宕神社）

東大寺（奈良市雑司町）

良弁僧正の開基で華厳宗大本山。天平十七年（七四五）聖武天皇が国力をあげて建立した総国分寺で、国宝の大仏殿は金堂で東西五七・三㍍、南北五〇・四㍍、高さ四八・六㍍、木造古建築としては世界最大。大仏はルシャナ仏で観音、不動明王、毘沙門天の三弘仁年間に空海が自刻の千手像を安置して建てたといわれる。寛永八年（一六三一）国守山内忠義が堂塔などを再興修理した。堂のほとんどは懸崖に建ち、眺望もよい。金剛密教法具など重要文化財がある。四国遍路第三十八番札所として参拝者で賑わう。

金剛福寺

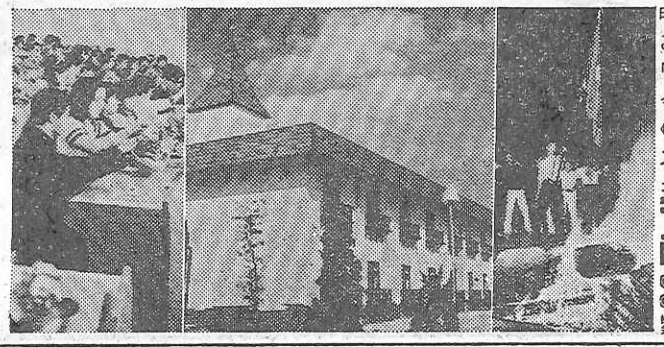
集印帖

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。

集団生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された〈スズカビレッジ〉

●全館冷暖房完備
●防火優秀ホテルとして昭47,7消防庁長官賞受賞

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ…自分でハンドルを握る〝ゆうえんち〟。
国際レーシングコースを走るレーサー気分も……
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで
校歌を歌うひととき――
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も
忘れがたいもの、どれを取っても
学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。



昨年一年間で11万人もの学生さんが
この思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた
〈新近畿ルート〉をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離
未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。

鈴鹿国定公園 国体開催指定地
スズカランド 鈴鹿サーキット
三重県鈴鹿市稲生町
電話＝0593〈78〉1111

本社：
東京都中央区八重洲5-5 ☎03(274)5821
大阪営業所：
株式会社ホクタランド 大阪市北区南扇町15 ☎06(313)0841